

第五回 南区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

1. 日 時 平成27年2月4日（水）午前10時～

2. 場 所 南区役所3階ホール

3. 出席委員
高智穂委員、浦田委員、福田委員、荒牧委員、松岡委員、濱崎委員、豊田委員、森委員、宮本委員、石原委員、岡委員（副会長）、田中委員（会長）

4. 配布資料
 - (1)－「会議次第」
 - (2)－「委員名簿」
 - (3)－「【資料1】H27まちづくり推進経費説明資料」
 - (4)－「【資料2】南区まちづくり推進事業の振り返り」

5. 次第
 - (1) 開 会
 - (2) これまでの南区まちづくりについて（振り返り）
 - (3) 平成27年度まちづくり推進事業について
 - (4) 南区まちづくり懇話会について（振り返り）
 - (5) その他
 - (6) 閉 会

6. 議事録

会 長 今回は最後の第1期南区まちづくり懇話会となる。私は平成24年度の「南区まちづくりビジョン」策定時から南区のまちづくりに関わるようになり、それから3年が経つ。当時から南区のまちづくりを研究していた学生が昨日修士論文を提出し、その論文を読んで思ったことは、色々な角度から南区の地域特性を調べているが、まだまだ南区について知らないことが多いということだ。第1期のまちづくり懇話会は、南区について考えるためにまずは「南区を知ろう」というところから始めた。その締めくくりとして今日は委員の皆さんにこの2年間の振り返りをしてほしい。この2年間で良くなったこと、実現できたこと、残念ながら出来ていないことなどお話を聞きたい。まず、「平成27年度まちづくり推進事業」について事務局から説明をお願いします。

事 務 局 (【資料1】H27まちづくり推進経費説明資料について説明)

会 長 まずはどういうことをどういった形でやろうとしてきたかについて説明いただいた。大きく分けると、基本目標1~3は、南区の得意分野である農業・漁業や歴史・文化など他区よりも誇れるものがあり、自然と共生したまちということでこれらを活かしてどのようなまちづくりが出来るかということだ。基本目標4~6は、全市的に問題があるので課題としてそれぞれ分けて、最後に区民の皆さんとどうやっていくかを3つに分けて話していただいた。この平成27年度の事業について質問やご意見を聞きたい。

A 委 員 「南っこ育成事業」について、前は「小・中学生を対象にした地域の歴史・伝統・文化・自然等を学ぶ機会をつくる」という提案だったと思うが、今回は小学生に限定してあるようだが。

まちづくり
推進課 小学生のみの対象とは考えていない。育成事業の内容として2つ考えており、ひとつは地域の語り部の方をお願いして、小・中学生を対象に講演をしていただくこと。もうひとつは、南区での簡易クイズ的なものを考えており、これは小学生がメインになるかもしれないが、決して対象が小学生のみとは考えていない。

A 委 員 私は自分なりに「南区まちづくりビジョン」を考えて、この懇話会に応募した。地域の文化や伝統を幅広く区民に知らせることによって、南区の魅力を掴もう、探ろうと考えてきた。私は語り部を中心とした組織を作っていかなければこの事業は単年度で終わると思う。私は校区内の語り部に立候補した。できたら近隣の校区と一緒に組織を作りたいと思っている。二の井出は田迎校区だけを通っているわけではなく、上流は田迎西~田迎~田迎南まで通っている。歴史・文化的なことは、その校区だけでなく関係する地域が一体となる必要がある。1校区だけでは人材に限られるので、数校区集まってそれぞれのノウハウを出し合って、事実・歴史を伝えたいことを確立して、文書

にしたものを引き継いでいきたいと考えている。地域にあったやり方で小・中学生に伝えることが大事なので、地域で相談しながら、子ども達が感動・感激して、自分たちも次の世代に伝えたいと思えるような地域の魅力を発信していきたい。

会 長 次年度以降も校区、南区、熊本市という3層で考えていかなければならないと思う。それぞれの小学校区でカラーがあるし、単独でも良い地域もあれば、集まってみんなで行うという地域もある。

B 委員 先日、校区の6年生の学年活動でのお話を頼まれた。私は、お話会として、すでにある物語を話して聞かせることを中心にやってきたが、何年か前に聞いたことのある校区内の神社の話を子ども達に伝えたくて、私なりに書き下ろして子ども達に話して聞かせた。親御さんも子ども達も良く聞いてくれた。自分がつまずいた時に、特に私は校区出身ではないので、誰かに聞かないと詳しいことは分からないし、文献等を見ても素人の私達からは見方が分からないので、校区に語り部の組織の集まりがあるととても助かる。

会 長 新しく自分たちで話を作ることも悪いことではないと思う。校区の神社について皆で考えようという行動が大事だ。歴史を学べる場所があること、そういう組織が存在すること、自分たちが考えていることを話せる場所があるということも必要だ。色々な形で校区を越えて繋がっていくことに南区は手厚いということをアピールできると良いと思う。

副 会 長 川尻では、昭和60年頃に「南部地区市民の会」というのがあった。今でいうまちづくり委員会だが、それがなぜこういう名称かという、自分たちの校区だけでなく、中緑や田迎、画図の方まで加勢川沿いのグループでまちづくりをやって行こうと取り組んだ拠点が川尻だったからだ。川尻が今やっていることは、他の校区と付き合っ、色々な知恵をもらいながら行っているということを知ってほしい。今年度も新町・古町界隈の皆さんや玉名市高瀬の方々と交流しながら町並みづくりを進めており、常に自分たちの内を見ながら、外の方々と連携している。地域のことに詳しい方はたくさんいる。川尻には歴史を調べるような方々、郷土史家の方々のグループがあり、そのグループと連絡が取れる形がとれており、H委員がされている自然団体などとも連携が取りやすい。可能であれば今後、南区の人材データベース的なものを作り上げ、組織化できればと思う。南区の各分野の人材データを作っていく必要があると思う。

会 長 ゆるやかで多様な連携ということで、川尻は若い世代から年配の方まで地域内外で連携をされている。それを楽しくやりながら自分達の方向性を探して、川尻はどういったまちになるのかを考えながら取り組んでいるところが大事だと思う。人材バンクの話があったが、南区では人々も宝だということのアピールして、そこから多角連携できるように、次年度以降も考えてもらいた

い。次に、議事の(1)「これまでの南区まちづくりについての振り返り」に移る。

事務局 (【資料2】南区まちづくり推進事業の振り返りについて説明)

会長 2年前にF委員にまち歩き手帖について「凄くいいものができたから地域の人達にたくさん配りたい」と言っていた。あれが初版だったが、来年度は第4版が発行ということで感慨深いものがある。回覧板作成事業についてもこの懇話会での副会長の発言がきっかけだったと思う。懇話会で色々話したことが実際の事業に繋がり、たくさんの方々のことを南区の方々とこの懇話会でやってきて、皆さん色々な意見をお持ちだと思うが、まずは皆さんにこの2年間で良かったこと、悪かったことについてお話いただきたい。

副会長 2年間色々な意見を言わせてもらい、情報交流拠点ができたり、自然の連携事業ができたり、実現している事業が多くあるが、その反面、情報交流拠点をどのように活かしていくのか、その後のソフトのほうを追いついていないようで心配している。満足度というか豊か感というかソフトのほうの充実は目に見えないから把握が難しいが、その地域の空気感に繋がってくるものだと思う。できたことはたくさんあるが、今後どう活かしていくか、どう発展させていくかがこれからの課題だと思う。良かったことは情報交流拠点を各出張所に設けることができたこと。

C委員 基本目標1の農業と漁業は南区の最も重要な部分であり、もう少し論議すべきだったと思う。それから、城南や富合の方は合併後、補助金・助成金に関してそれまで全額行政の予算でやっていたものが、自分達の個人負担になり、色々大変だったと思う。飽田も合併して25年くらいになるが、合併当初は色々大変だったことを思い出した。良かったことはスタートしたばかりの「健康のまちづくり」。これからの南区の活動に期待したい。

D委員 人材育成の問題はどこにでもあると思うが、私のところは「健康まちづくり」のワークショップを何回か繰り返すことで、「こうしたらどうか」などいろいろな提案が出た。そういう人のまちづくりへの情熱が人材育成に繋がるので、ワークショップを続けることは大事だと思う。「健康まちづくり」でのワークショップを何回かやり、天明は4校区ともいろいろな事業をやっているの、今度4校区が集まって「健康まちづくり」について話し合ったり、お互いにやったことを発表してもらったりする予定だ。お互いに良い部分は真似したいと考えている。

E委員 2年間皆さん方のお話を伺って大変勉強になった。人づくりやネットワークの形成はなかなか難しい面もあるが、最初は嫌々ながら取り組んだ「健康まちづくり」もやってみると結果としては取り組んで良かったなと感じている。今後は「健康まちづくり」ののぼりや横断幕を作り、知らない人へアピール

したいと考えている。また、「南区“いきいき”フェスタ」について、この会議でも「開催場所を変えたらどうか。」という意見があったが、まだ2回しか開催していないので、区役所でのフェスタを5年なり暫くの期間固定してやるほうが、まだまだたくさんの区民の方にも知ってもらえると思う。

F 委員 「南区まち歩き手帖」が楽しみで楽しみで仕方がない。今年度の第3版、来年度の第4版がどんな内容になるか今から楽しみだ。いろんな寄り合いで配り、みんな興味深々に見ているし、その笑顔を見て私も嬉しくなり笑顔になる。それから、「健康まちづくり」は4、5回ワークショップをやり、2つのテーマに絞り込み実施した。まず1つは認知症の問題。私達の世代は6人に1人は認知症になるので、身近な問題として捉え、今度認知症サポーターの為の勉強会を自治協でやる予定だ。それからもう1つは、今度小中学生・老人会・婦人会などの共催でウォーキング大会を予定している。日吉小学校と日吉東小学校と合同でやる予定だ。今後も「健康まちづくり」がますます発展すると嬉しい。

A 委員 この懇話会に応募した時の私の課題が「自分の地域の人材育成をどうはかるか」で、1人でも多くの方に地域のまちづくりに参加してもらうため、皆さんの意見や考えを聞いて、地域に持ち帰って実践したいと思っていた。人材育成は、発見して育成してバンクまでつくることが大事だと思う。ただ発見するだけではなくて、実際に使えるようにバンクまでつくって初めて人材が生きてくると思うので、それが今後の課題だ。過去2回の区内視察で南区にはこんな遺産があるんだと驚いたし、私の地域にもそういう所はあるはずだから、それを自分なりに地域で広めて教えていく使命があると感じた。私達の町で課題を見つけて解決していくということは、それぞれの校区に住む者に課せられた大事なことだと思うので、地域に帰ったら、この懇話会で出た意見、聞いた意見を元に地域の課題解決に取り組みたい。このまちづくり懇話会は大変意義のあるものだったと感じている。

G 委員 「健康まちづくり」について、今の状況は何らかの事業を展開しているのが10校区、あとの11校区は検討中・策定中となっているが、今後何らかの形で展開されていくと思う。人間は健康が第一なので、ひとり一人の健康がまちの健康に繋がっていくという認識を皆さんに持ってもらうためにも、催し物を年1回だけじゃなくて春と秋の2回ぐらい開催すると良いのではないかな。

B 委員 懇話会に参加するにあたり、私が参加することにどういう意味があるかなと考えた。子育てに係わっている人達、子育てを支援している人達の思いを伝える役目があると思い、それを皆さんにお伝えして、懇話会で話を子育て支援をしている方々や校区の方々に伝えることが自分の役目だという思いで2年間参加してきた。子育て支援に対して、皆さんから目を向けてもらうことができたと思うし、それはとても良かったと思う。また、子育て支援をしている私達も「南区“いきいき”フェスタ」等を通して他のネットワーク

が必要になった。先々、子ども達とその保護者の方々がこれからを担う人材になるのかなと感じている。「健康まちづくり」は子育てや子ども達が大きく関わってくる部分だと思うので、これからも色々なことに参加して、聞いて、見て、話して、人材育成に繋げていければと思う。

H 委員 私たちは8団体が集まり、2つのまちづくり事業を行ったが、その中には事業に関わることが初めてという団体がそれぞれの事業で半分ずつくらいいた。お互いができるところを補ってあげれば、初めての取り組みでもやろうとしたことが達成できるということがわかったことが成果だったと思う。今後は、より多くの南区の団体に呼び掛け、組織を作り、強化していくことが課題だと思う。

会 長 やはり実践されている方からの言葉は重いなと感じた。南区には本当に色々な団体があって、成功も失敗もされていると思うが、そういったことが知れたことは良かったと思う。

I 委員 私は、歴史・文化という視点から色々なことを考えて、できることからやってみようという気持ちで取り組んできた。私の持論だが、まちづくりの基本は人づくりだという思いで、色々な取り組みを実践させていただいた。南区の総務企画課や熊日新聞等に取材をしてもらった杉上小学校の取り組みの中で、子ども達からの反省を聞くと、「地域の人達から学んだことがいっぱいあるが、その中で自分たちは何をすればいいのかという課題を持った」という意見があった。今後の生活の中でどうやって取り組めばいいのかを子ども達の心に植え付けることができたのは大きな成果だった。自分達のまちを知ることは自分を知ることにつながると思う。自分を知った子ども達が次にどういうふうに進んでいくのか。27年度のまちづくり推進事業の中に「南っこ育成事業」があるが、大きな取り組みになるようとても期待している。「南区“いきいき”フェスタ」の開催場所についても、もっと他の地域の方々に南区を知って欲しいし、その中で人材を育てていくためにも地域で回しながら進めていくと南区のまちづくりに繋がっていくのではないかなと思う。

J 委員 最初はなぜ私がこの場所にいるのか、必要なのか、農漁業の代表として何ができるのかなという疑問があった。農漁業には水、空気、土が必要で、そこにある食の安心・安全に関しては南区は絶対に誇れるまちだと思う。南区の歴史を知ることでもでき、このまちに住んでいながら見ようとしていなかったことをこの懇話会の中で勉強させていただいた。この2年間で皆さんのように人に伝えるところまではできなかったが、この場で自分が育てられたと思う。それから、「南区“いきいき”フェスタ」では、区民の皆さんとの繋がりが少し見えてきたかなと感じている。天明地区では、「健康まちづくり」のイベントでウォーキング大会を行ったし、子どもから高齢者まで多くの方々に参加していただき、とても賑わった。今後も続けて行きたいと思う。

- 会 長 是非、行政の方にもお話をいただきたい。宗次長には一番最初から参加していただいたので、良かったこと、悪かったことを一つずつ話してほしい。
- 宗次長 「健康まちづくり」についての意見が多かったが、活動の最初はワークショップから初め、地域の方からご意見をいただいて「じゃあ何をしようか」「肩肘張らないでできることをやっいていこう」という意見の中で南区では「明るく楽しく息の長い活動を」というキャッチコピーを作って「健康まちづくり」に取り組んできた。地域でイベントを開催される際は、「健康ちびっ子祭り」とか「健康自慢大会」など是非名前に「健康」という言葉を付けてもらいたい。課題としては、全市的に後継者が不足しているのので、皆さんがおっしゃるように人材の発掘・育成を強化していきたいと思う。
- 会 長 折角なので熊日新聞の記者の方からも意見をいただきたい。
- 熊日記者 先日、天明の川口・海路口の名前の由来を取材したが、きっかけはまち歩き手帖に載っていた地名を見て面白いなと思ったから。現在まち歩き手帖がどのように活用されているのかというと、F委員のようにとっても好きな方はたくさん広めてくれるが、それがどこまで皆さんに広まっていて、実際に「このマップを元に歩いてみよう」という動きに繋がっているのかは疑問に思うところがある。これがきっかけとなって色々な活動に繋がって、子どもからお年寄りまで色々な人がまちづくりに関わるようになれば、その中から光る人が生まれると思うので、そういう活用・情報発信の仕方を期待したい。
- 会 長 南区は区民の満足度が高い区だと感じているが、それがなかなか数字として現れないことがとてももったいないと思う。熊本市の中で南区が一番だということをもっと自慢していいと思う。南区の人は笑顔だ、それは何故かということも数字で出せるような評価ができればよいと思う。南区の良いところやたからものをもっと活かして、南区は良いところだという実感がもてる区民が増えるような区政に繋がってほしい。委員の皆さんの任期は今年度までだが、南区のことを一生懸命考えてくださる皆さんがいろいろな方とたくさん繋がっていくことが南区の底力に繋がると思っている。
- D 委員 天明の海岸の緑川の淵から天草の湯島に日が沈むところはとても綺麗な景色で、秋口にはカメラを持った方がたくさん来る。有名な場所なので、是非まち歩き手帖の中に風景として写真を載せていただきたい。
- 会 長 個人的にはまち歩き手帖に美味しい食べ物を載せたい。行政が発行するものだから店名をそのまま掲載できないので、そこをどうやって工夫するかがポイントだ。
- 副会長 問い合わせ先を商工会等にしておけば、食べ物についての紹介もできるのではないか。まち歩き手帖をもっと活用するために、「歴史に関する問い合わせ

はこちらでガイド付きも可能」などとしていけば、人材データバンクにも繋がるし、地域の紹介にも繋がると思う。商工会はたくさんの情報を持っているし、もっと連携すると良いのではないか。

会 長 私は高校生をもっとまちづくりに投入できないかと考えている。南区は自然と歴史と農業があるので、もっと若者にアピールしたり、高校と連携したり、若者がまちづくりについて語る場を設けたりすることが必要だと思う。

J 委員 高校生のまち歩きガイドが作れたら良いと思う。

副 会 長 その為には、A委員やB委員が言われているように小学校から地域について学ぶことが必要になる。地域のことを伝承していくには、小さい時から話を聞いておくことが一番有効な方法だと思う。小学校や中学校の先生方に総合学習の中に地域と連携するようなプログラムを組んでもらい、その中で歴史、農業、地域、環境などについて話し合うような仕組づくりをしておくことで高校生になった時にまち歩きガイドになれると思う。

会 長 最後に事務局から連絡はないか。

事 務 局 以前、「南区“いきいき”フェスタ」の開催場所についてご意見をいただいたが、そのことについて先日の「南区“いきいき”フェスタ」実行委員会にて協議がなされた。これまでは区役所の拠点性のPR、新幹線総合車両所との連携、公共交通機関の利便性、来場者の駐車場の確保等を考えて南区役所で開催しており、来場者数も多く、来場者アンケートでもフェスタの内容について好評をいただいております。フェスタが区民に定着しつつあると実感している。このような状況を踏まえ、実行委員から開催時期及び場所について意見をいただいた。時期については他のイベントと重ならないこれまで通りの11月下旬、場所については、区のイベントとして現在定着しつつあること、新幹線総合車両所との連携イベントであること、公共交通機関でアクセスしやすいこと、駐車場の確保が第一であることなどから南区役所で継続していくことが望ましいという意見が多かった。見直しや課題として各地域での盛り上がりも大事だという意見もあり、前夜祭を各地域ではどうかという意見もあった。来年度の開催時期及び場所については、このような意見をもとに27年度の第1回実行委員会で決定する予定だ。それ以降のフェスタのあり方については、今後の実行委員会やまちづくり評価事業での区民意見などを参考に決定したい。

会 長 最後に区長から挨拶をお願いしたい。

区 長 この2年間、第1期南区まちづくり懇話会委員として、南区のまちづくりに関して様々なご意見をいただき非常に感謝している。第1期ということで事務局としても手探りで運営してきた部分もあり、会長、副会長はじめ委員の

皆さんにご迷惑をおかけしたこともあったと思う。皆さんの意見を踏まえて私なりに振り返ってみると、政令市以前は本庁と各校区の関係で校区単位のまちづくりがメインだったものが、区になり、ビジョンをつくり、6つの基本テーマを掲げながらまちづくりを進めてきた。農漁業、歴史・伝統、自然など南区の魅力の部分がまちづくり推進事業や「南区“いきいき”フェスタ」の中でそれぞれの実行委員会組織ができ、活動ができるようになった。また、健康、子育て、防災は南区としての課題であり、ゆるやかなネットワークを作りつつ、先進的なモデルを作り、これをシェアしながら広げていくことで、テーマの実現を図りたいと考えている。皆さんから多くご指摘を受けた人材育成については行政側でも議論している。まずは、今がんばっている方々のリーダーを育成すること、そして将来の子ども達が南区のことについて詳しくなるように育成すること、そして若者や女性や還暦世代をいかにまちづくりに取り込むかが課題だ。来年度のアンケート調査事業で区民の方々がまちづくりについてどのように考えているのか、声をかければ参加してもらえる状況なのか、まちづくりに全く興味がなく関わりたくないと思っているのか、そういう意識調査の結果を踏まえ、検討していきたいと思っている。現在のプロセスはビジョンでいうところの「南区を知る、集まる」という段階であり、多くの皆さんや団体が次のステップである「始める、伝える」というステージに進めるよう、27年度以降さらに世代間・地域間の連携を図りながら取り組まなければならないと考えている。皆さんは本日で第1期南区まちづくり懇話会委員の任期を終えられるが、どの方もそれぞれの分野で第一線で活躍されているリーダーの皆さんなので、これからも南区のまちづくりを牽引していただきたいし、行政とも懇意にさせていただき、今後も緊密に連携させていただきたいと考えている。

事務局 それではこれで平成26年度第五回南区まちづくり懇話会を終了する。